SY8-3

災害時の妊産婦や乳幼児の「食・栄養ニーズ」と栄養士に期待される役割

笠岡（坪山）　宜代
国立研究開発法人　医薬基盤・健康・栄養研究所　国際災害栄養研究室

災害時に真っ先に優先して栄養支援が必要なのは「乳幼児」である。わずかな食事状況の変化が重大な健康障害や災害関連死に発展する可能性があるからである。また、食物アレルギーを有する患児への食支援も優先しなければならない。そのための食料備蓄や特殊栄養食品を提供する仕組み、被災された母子を把握する仕組み等が喫緊の課題である。

東日本大震災における避難所を分析したところ、３割以上の避難所に、なんらかの食支援が必要な被災者がいた。普通の食事が食べられない要配慮者が支援を求めていたのである。その中で最も多かったのは、「ミルク・離乳食が必要な乳幼児」であった。

実際の具体的な課題を抽出する研究も行っており、熊本地震等の被災地において母子への栄養支援を実施した管理栄養士・栄養士にフォーカスグループインタビューを実施したところ、被害状況の異なる地域でも共通していたのは、ミルク、アレルギー対応食、離乳食等個別の食事に困っていたこと、子どもの肥満増加であった。一方、食べ慣れた食事に安心することが被害の甚大な地域でのみ多く語られていた。また、乳幼児と小中学生について、肥満増加は共通していたが、不安による食欲不振は乳幼児でのみ多く語られた。さらに、甚大な被害を受けた地域では、急性期だけでなく中長期的にも衛生上の問題があった。

このような問題を解決・支援するためにはガイドラインやマニュアルが欠かせない。そこで、災害時における栄養・食生活に関連するガイドライン等を調査したところ、現在公表されている母子に関するガイドライン等は、2011年に作成され、その後更新されていないガイドライン等が多いこと、発災初期に対応する内容が多いこと等が明らかとなった。

災害時の母子の課題は多岐にわたり、中長期的にも食事の量および質の確保が困難であり、食事の改善が生活の質向上につながることが明らかとなった。今後、最新のエビデンスに基づいて作成したマニュアル等を積極的に周知するとともに、災害時の母子保健支援に活かす必要がある。

●災害後の中長期的な母子保健対策マニュアル
（作成：令和２-３年度厚生労働行政推進調査研究事業「災害後の母子保健サービス向上のための研究」班）
https://www.nibiohn.go.jp/eiken/disasternutrition/info/boshimanual.html

●災害時の栄養情報ツール
一般の方向けリーフレット＆専門家向け解説　赤ちゃん、妊婦・授乳婦編
（(国研)医薬基盤・健康・栄養研究所）
http://www.nibiohn.go.jp/eiken/disasternutrition/info_saigai.html

Presented by Medical*Online